

カトリック六甲教会 教会報

2008

6

No.438

人は何のために生きているのか？

主任司祭 桜井 彦孝

4月初旬、ほぼ半世紀振りに王子動物園を訪ねました。小学生の時には遠足や図画のクラスで度々行きましたが、今回は420本の桜満開宣言のニュースに誘われたからです。園内は春休みの小学生たちで一杯でした。ゆっくり座って花見を・・・どころではありません。子供たちと一緒に動物を見て廻る羽目になりました。タイガース・ファンとしては、一目猛虎の姿を・・・と。いました、いました！一頭は寝そべり、一頭は狭い檻の中を歩いていた。しかし、同じ所を歩きつ戻りつ、ただ繰り返して歩いているだけでした。子供たちが声をかけても全く反応を示さず、数メートルの間を往復していました。男の子たちが「このトラ何しとるんやろ」、「同じ所を歩くだけで、バカちゃうか」、「退屈やろな。」さすがに女の子たちは優しいですね。「狭い所で、かわいそうや」、「他にすることないもんね」、「遠い国から来て、淋しいと思うわ」、「死ぬまで、こんなことしてるのやろか。」この時ばかりはトラたちに不憫を感じ、仲間のいる大自然に送り返してあげたい気持ちになりました。

私は動物園を出てからも、妙に子供たちの話が脳裏に焼き付いていました。一体、動物園のトラは何のために生きているのか。トラと云えども、いずれは死んでゆく、その一回の生命は何だろうか。命があるから、生きているだけなのか・・・。ひょっとして人間も同じように、生きるだけで精一杯という時があるだろうし、退屈まぎれに何かで時間を潰しているだけの時があるかも知れない。一回しかない人生なのに、何のために生きているのか分からないまま、或いはそんな難しいことは考えないまま、歳をとれば趣味や療養に明け暮れて、寿命が尽きるのを待っているのではないだろうか。身につまされる想いでした。

昔の人は主君のために、家族のために、会社や仕事のために、学問や芸術のために、(戦時中は)祖国のために、天皇陛下のために・・・。現代も、家族のために、仕事のために・・・という方々が多いかも知れません。一昔前、或る勉強熱心な高校生に尋ねたことがあります。「何のために、そんなに努力して勉強するの?」「名門校に入れ、と親に言われていますから」「・・・」「僕も、良い会社に入るためには良い大学に行くことが必要だと思う」「そして・・・?」「高い給料が欲しいし、かわいいお嫁さんを貰ってマイホームを建て、退職後には海外旅行をしたいし別荘も持ちたいし・・・」「それから?」「それで終わり。人生で他にすることがありますか?」「・・・?」今の社会は格差が拡がりつつあり、仕事に就くのも家庭を築くのもままならず、マニュアル通りの単純な人生設計を立てる人は少ないでしょう。今の時代に、若い世代は一体何に生き甲斐を見出しているのでしょうか。“心から誰かのために”という喜びは?“愛するために生まれてきた”という感動は?と尋ねてみたくなるのですが。

私たち信仰者は、家族や友のために、小さな人々のために、人類社会のために、そして神の栄光のために・・・という崇高な生き方を願っていると思います。パウロは言っています。「私たちの中には、誰一人自分のために生きる人はなく、誰一



人自分のために死ぬ人もいません。生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです」(ローマ14章)。主のために生きるということは、実は「主によって生かされている」という更に大きな喜びに繋がっているのです。「何のために生きるのか」という問いは、「何によって生かされているのか」という問いと切り離すことが出来ないと思うのです。自分の力だけで生きているのではなく、何かによって誰かによって生かされているからです。あなたは“何によって”、或いは“誰によって”生かされているのでしょうか？



信徒の教会づくり

4月号から始まった新コーナー「信徒の教会づくり」。第3回目は、壮年会の川合会長にご投稿いただきました。(広報部)

福者たちの輝きを纏めた小冊子「ペトロ岐部と187殉教者」には、今の時代を生きる私たちには想像を絶する列福者たちの生涯、いや、生き様が紹介されています。

ぶれることのない信仰、勇気と力そして神への希望と喜びが共通する点と感じました。

貧しさと苦しみそして一途な信仰が互いのきずなを深め、肩を寄せ合い寄り添いながら生きたのです。また、1610年頃の米沢教会では司祭の巡回は年に数回しかなく、その間信徒は霊的読書と祈りを土台に、孤児の世話、病人・貧困者の支援、葬式や結婚の司式もしていたそうです。司祭に頼らず信徒が自分たちで役割を担って信仰に生きたのです。現代日本の教会が模索する「信徒の教会」が、すでに米沢にあったと紹介されています。

「カトリック教会のカテキズム」洗礼の秘蹟の項1268に、洗礼を受けた者は教会そのもととなり教会の使命を負う、使徒奉仕職を担うとあります。本来、信徒には信徒独自の役割・使命があるわけですが。教会は、第二バチカン公会議をとおして、その理解・認識を変えなければならないことに気付いたとのことです。今までの教会は、司祭・修道者が中心になってすべてが動いていて信徒が乗り出す余地なしでありましたが、教会も長い間これらの点について十分な注意を払ってこなかったことを反省しているとの事です。また司祭の減少傾向への対応として、「信徒の教会」が云々されるのも時代の要請かもしれませんが、洗礼を受けたキリスト者、信徒の役割・使命は本来ハッキリしていることなのです。

しかし、いくら教会がこれまでの認識の変革の必要性に気付いても、いくら教会がこれまでの十分なる注意不足を反省しても、これまでの“おんぶに抱っこ”に慣れ親しんでしまった信徒が、洗礼を受けた瞬間に担っている本来の使命を認識しない限り、ことは運びません。だから、信徒自らが信仰を養成することから始めて「信徒の教会づくり」を目指さねばならないと思います。キリシタン時代の先達が抱いていた貧しさと苦しみ、そして一途な信仰の百分の一にでも達したい気持ちです。

昨年12月の壮年会黙想会でのコリンズ神父の言葉がよみがえります。

「教会は聖霊である。誠実に心の中で聖霊に導かれたいと思う開かれた心を持つことが一番大切なことである。復活のキリストを信じるのが皆の共通点である。初代教会と同じように我々も共同体を作らなければいけない。」

(壮年会 川合)

「信徒の役割と修道会のミッション」

2008. 5. 11.

船井 孝祐

イエズス会の日本管区長と面談する機会がありました。数人の当教会信徒とともに参加致しました。この面談において、小生の感想を下記述べてさせていただきます。

私たちは、当今の世界のグローバル化による、大きな社会変化のまただ中にいます。この中で私たち信徒はどう対処して行くべきか、私たちひとりひとりが信徒としてのアイデンティティーを確立して、使徒職を行動に移して行かねばならないことが第一。次に修道会は、この時代の変化に充分対応できているか、また神父、シスター等修道者の減少下、諸活動の選択と集中をどう考えて行くか。こうした中で、信徒と修道者との関係を今一度問い直す必要があること。つまり、従来信徒は、修道会に全面的に依存し、修道会は、それぞれのミッションにもとづく活動を推進して行くと言った構図をとって行けなくなった状況を再考する必要がある。

私たち教会は、「宣教型の共同体」への変化が求められている。教会は「信徒のいやし」の場であると同時に「外に向かって働きかける」機関であるといった認識の必要性が求められる。

より具体的にいえば、

- ① 信徒としての信仰を深め、「祈り」を深める
- ② 社会のひずみの中にいる人、光のあたっていない部分への対応
- ③ 非信徒（他宗教）との対話、協力
- ④ 地球環境問題への取組み
- ⑤ 近隣の教会との交流と協働、その為の人事交流など

世界的に神父等修道者が減少して行く状況下、教会の衰退を声高に叫ぶだけでは、問題の解決にならない。しかしながら「神ながらの道、こと挙げせず」ということにもならぬであろう。

今、私たちが出来る事、正しいと思うことを、いろいろ変化する社会の多様性に対応できるよう努力することが求められているといったことをあらためて認識した次第である。



!!! 参加者募集 !!!

< 三日月会 >

毎月第**3月曜日** 14時
70歳以上の男女青年
ミサと例会

< ? ? 会 >

毎月第**4月曜日** 11時
20～40歳代の若婦人
聖書と典礼と子守つき

? ? 会でしょう。答え「**ベビーとママの集い**」お待ちしております。

担当：藤原

主任司祭の地平線

日曜日、私はミサの前後に庭に立っているのが喜びです。まず大きな鐘の音が鳴り響き、神のいつくしみと救いが告げられているように感じます。そして、多くの方々が日々の生活と仕事その労苦を背負いながら「感謝の祭儀」に参加されます。或る方は参道を一步一步踏みしめるかのように心を清めて教会に入り、或る方は早くから聖堂に座って心を整えたり「聖書と典礼」を読んでおられます。家族や友人と共に和気藹々と入る方々も、何かの都合で滑り込みセーフの方々も・・・それぞれに神への礼拝・感謝・賛美をもってミサに来られる方々に接するのは大きな喜びです。

ミサ後は一転して、通常にぎやかな喜びに変わります。ミサ後の朝食会、勉強会や委員会、三日月会喫茶や手作りコーナーなどお互いの交わりがあるからです。私が庭に立って心がけているのは、新しく来られた方、転入者、外国の方、ご高齢の方、ご病気の方、子供たち、帰神されているご家族などと挨拶をすることです。お陰で毎日曜日のように、出会いや交わりの喜びをいただいています。



みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

「宣教」

主はピラトに告げられた、「わたしの国は、この世には属していない」。

主は群衆に言われた、「あなたがたは世の光である」。

主は群衆に言われた、「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と。

主はニコデモに言われた、「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と。また「だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国にはいることはできない」とも。

わたしは洗礼によって「新たに」生まれた。「新たに」であって輪廻ではない。「この世に属していない国」に「新たに」生まれた。ふたたび「この世」に戻ることはない。わたしはこの現実をどれだけ確かに自覚しているのだろうか。

洗礼を受けたその瞬間から、わたしは「この世」の誰よりも高く輝いていなければならない者となった。わたしの光を「人々の前に輝か」さなければならないのである。見せるためにである。これは理想ではない、そうでなければならないのである。

「この世に属さない国」に新たに生まれたわたしは、属さない国の価値観ではなく、属する国の価値観によって生きるのである。そして、その姿を人々に見せなければならないのである。

「この世に属さない国」に新たに生まれた聖パウロは、コリントの兄弟たちにこう書き送っている。「わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです」。

わたしは本当に自分が何者であるかを自覚しているだろうか。自分が何者であるかをこの世の人々に、誇ることなく示し見せているだろうか。

(ヨハネ 三好)



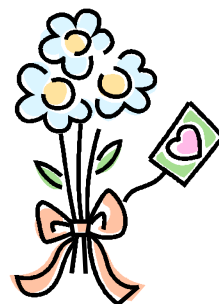
4月27日聖体奉仕者・病床訪問グループ黙想会(コリンズ神父指導)に参加して

今、身近に気になる人がいる。「この人のために私はどうすればいいのか？何をすることがこの人の助けになるのだろうか？」自分の頭であれこれと考えていた。その時コリンズ神父様の口を通して、神が私に語りかけて下さった。「自分で答を出そうとするのは止めなさい。それはあなたの考えであって、私の答ではない。私がいつもいいようにしてあげている事を知っているではないか。私から出る答をゆっくりと、安心して待ちなさい。私には出来ない事は何も無いのでだから。」

ゆだねて待つこと、それしかない事を知りつつ、ついつい「どうしてあげたらいいのかしら？」と自分で答を出そうとする。神から出る答は自分には思いも及ばないものであったり、またとても受け入れがたいものかも知れない。「それだけは出来ません」と拒むのか、自分を無にして神の声に聞き従うのか、神に問われる時である。結局はこれだと私は思う。そして色々と言いつつ、自分の思いを貫いた時は後でいつまでもブツブツ言いつつ、神の声を優先した選択をした時、心は喜びで満たされる。

この黙想会のテーマは「祈り」であった。祈りの形は色々あって、これが祈りで、あれは祈りではないとは言えない。人それぞれの祈り方があるが、神のそばに身を置いて、自分を明け渡す。私にはそう思えた。私事になるが、三ヶ月前に生まれて初めての手術と入院生活を経験した。その時今まで経験した事のない思い、自分の力ではどうしようもない切羽詰まった状態の中で、心底神を呼び求めた。病院内の聖堂入口の「私はいつもあなたと共にいる。」このみ言葉にどれほど力づけられたことか。そして、たとえどのような結果になったとしても、その時神が共にいて下さるなら満足だった。不安は喜びに変わった。自分の祈りと共に、沢山の方々の祈りの力も大きい事も実感した。後期高齢者になった今、若い時のように活動は出来ないどころか、囲りの方にお世話になる日常になった。誰かのために役に立ちたい、それがなければ生きていく気がしない。何も出来なくなった時、その時出来る事、「祈り」が残されている。最高のプレゼントだと思う。病床訪問グループの一員として、囲りに目を向けて祈る事が出来たら幸せだと思う。

(神戸中央教会 病床訪問グループ 武田)



各部だより

各部の活動の連絡を記載いたします。教会活動の参考になさってください。

🌸婦人会

6月6日(金) 初金ミサ 10時

6月22日(日)12:30

内容：福音の分かち合い

場所：第5会議室

🌸三日月会

例会 6月16日(月)14:00～ミサ

講演 三浦優子氏「グレゴリオ聖歌」

ビデオ鑑賞

喫茶 6月1日(日)9時ミサ後～13時

於：イグナチオホール

※定例会以外でも、片柳助祭と昼食をご一緒したり、皆楽しんでいきます。こちらにもどうぞお越しください。

🌸典礼部

東ブロック合同「聖体奉仕者の研修会」

・日時：7月13日(日)14時～16時

・場所：神戸中央教会

・指導：コリンズ 神父様 (講話と分かち合い)

🌸青年会

定例会 6月8日(日)12:30

新約聖書をご持参下さい。4月の「聖体奉仕者黙想会」に出席できなかった方も、是非ご参加よろしくお願ひいたします。

📍地区会

報告①<地区会世話人会>

去る4月27日に地区会の世話人会が60名近くの世話人の皆さんの参加で開催されました。

今春の小教区総会において、現在進行中の規約改定委員会の討議内容の説明があり、地区会を専門部会にする議論もあるということが報告されたところですが、これを受けて今回の世話人会では評議会役員の方々も参加していただき、この件について世話人の皆さんのご意見をお聞きすることになりました。

世話人のお一人でもある規約改定委員の鈴木肇さんより簡単にこれまでの議論の説明をしていただき、その後活発な議論がなされましたが、地区会を専門部会にする議論というよりは、世話人の方が日頃苦勞されている地区会の抱えている問題が率直に出される討議となりました。

世話人の任期が決められてないことで世話人をいつまでも続けないといけない心理的な負担や、教会から遠方で広大な地域を抱える地区が家庭集会を開けない現状、地区会を開いても参加者が少なくメンバーが固定されていることなど。そもそも世話人が何をどこまですれば良いのか、したことで目に見終える結果が残らないことの戸惑いなども率直に述べられました。

地区会を積極的に信徒会の中で重要な位置に考えようとする意見もある一方、今回の専門部会議論の中で「将来の宣教拠点として家庭集会作りを目指す」と謳われるような「宣教拠点」と、これまで地区会で培ってきた「親睦を図る家庭集会」とがイメージとして重ならないという声もありました。

病者の訪問など直面する課題に取り組み、現状で出来ることをしっかりやるなかで、地区会の問題点を是正していかないと地区会活動自体が停滞してしまうという危機感のある意見もありました。

地区会を専門部会にする議論については、今

回の世話人会の議論を受けて規約改定委員会でさらに討議がされることとなります。

次に、三日月会から「お誕生日カード」の配布について援助の依頼がある件が話し合われ、今後はいくつかの地区によっては、世話人から三日月会の「お誕生日カード」が届けられことになりそうです。

最後に、現状で婦人会が専らおこなっている葬儀の受付について、灘区や東灘区の地区については地区会が主体的に行っていくこととなりました。

報告②<御影山手地区会>

御影山手地区会が4月20日に教会の会議室にて開催されました。

安芸神父様のお話しや、河野さんの歌の披露もあり、終始和やかに行われ、大変有意義な会でした。この会では次のようなことが話し合われました。

- ・病気や1人でお住まいなどの理由で、お困りの方に関して、可能であれば情報を確保しておく。

- ・地区会専用の連絡網については、本日の地区会に参加した出席者のみの名簿を作成し、徐々に協力者をつのり追加していく。

- ・家庭集会については、開催場所の確保が困難なので、差しあたり教会の部屋を借りて読書会のような形式で始めてはどうかということになった。(地区会コーディネーター 大橋)

報告③<六甲アイランド地区会>

去る5月24日(土)10:00~12:00、いつものように高山様宅で地区会を開催。12名(うち幼児1名)が出席。初めの祈りの後、地区会コーディネーターから4月27日に開催された地区会世話人会の状況を報告。その後、楽しい歓談のひと時を分かちあい、終わりの祈りをもって閉会した。次回は10~11月ごろ開催の予定。神に感謝。(柗木)

📍社会活動部

次回連絡会：7月4日(金)10時ミサ後



＜お 知 ら せ＞

各部の活動の連絡ですが、参加を広く信徒の皆さんに呼びかける内容の記事を記載いたします。教会活動の参考になさって下さい。

【社会活動部より】

6/4 (水) 10:00 手芸の集い (第1・2会議室)

どなたでも参加ご自由です。

6/14 (土) 10:00 炊き出しはお休みです。

6/15 (日) 10:00 ブックフェア

パウロ書店の本販売や、手芸部作品販売等。

手作りコーナーも同時開催。

6/22 (日) 13:30 シナピス神戸移動学習会 (イグナチオホール)

テーマ: “憲法と国民投票法”

講 師: 笠松 健一氏 (大阪弁護士会)

【養成部より】

188名の列福を記念して講演会を開きます。

講 師 五野井隆史 (聖トーマス大学教授)

テーマ 『日本人とキリスト教の出会い』 (日本人が救いを求めていた時代)

日 時 2008年7月20日 (日) 14:00～

会 場 カトリック六甲教会大聖堂

ザビエルから初めて福音を告げられた時の日本人は？福音に答え、死をもってイエスを証しする事をためらわない信仰を育んだ日本人は？

キリスト教の低迷と云われる今の時代、私たちの信仰の先祖たちの生き様に学びましょう。

【壮年会・婦人会より】

ちょっと早いですがお知らせします。壮年会・婦人会合同例会を開催します。

日時: 7月27日 (日)

場所: イグナチオホール、駐車場

内容: 10:30～12:00 榎木久和氏講演

テーマ 「イタリア美術とキリスト教」

12:30～14:30 バーベキュー

詳しくは6月末にポスターでお知らせします。ご期待下さい。

“聖書と生活”

「ヨハネ福音書」(講師：Fr ホアン・マシア)
6月 2日(月) 10:00～ 場所：第1会議室
6月16日(月) 10:00～ 場所：第1会議室
どなたでも参加自由です。



† † † † † †

「十字架のしるし」について(教会報5月号10頁)

ごミサの閉祭の派遣の祝福について会衆は「十字架のしるし」をしながら祝福を受けます。しかし、典礼刷新により現代は手を合わせて祝福を受ける姿も薦められています。

どちらかでなければならない、という規定は今のところありません。

主任司祭

† † † † † † † † † † † † † † † †

📖 図書紹介



「忘れ物のぬくもり」

塩谷直也著
女子パウロ会出版

聖書 — それは人間の罪深さの事例集。その罪深い人間を処罰の為でなく、救いの為に捜査し、見つけ出すという壮大なレポート。そこで読んだドキドキする内容を8年にわたって雑誌「あけぼの」に話した、と著者の塩谷氏の弁。それに日本キリスト教団梅ヶ丘教会の礼拝・聖書研究会で語られたことをあわせて、一冊の本にまとめられた。

テーマ別に自分の体験談と聖書のことばを引用しながらの文章は読み易く、イエスと弟子との関係の中で少し角度をかえた見方に思いを新たにしたり、納得したりする。

人を愛するとはその人のありのままを受け入れる。即ち勝手な自分の願望に当てはめるのではなく、現状の相手を直視し信頼することが愛であろう。自分の作り上げたイメージ、先入観を捨てることが愛ではないか。自分の願望を投影したイエスとはお別れせねばならない。信仰とは最終的にわたしの思い込んだ神と決別することなのだ。つまり神を捨てることに他ならないとの逆説的な言。

誰に理解されなくても少なくとも神が私の思いを知っておられる。誰が評価しなくても「隠れたこと

を見ておられる(マタイ 6-4)」ことを知って明日へのささやかな力が与えられ、この世の不条理を乗り越える希望を与えてくれる。

わかり易い文章の中に時折出てくる宮崎弁が、著者の温かさ、優しさ、ユーモアで私たちに語りかけてくれる。「神のことばを通して人生の歩みに光を与えてくれる。」
(藤井)

ホームページのご紹介

★イエズス会霊性センター「せせらぎ」

<http://www.seseragi.gr.jp/>

…日々の生活の中で祈りを深めていくためのヒントが、たくさん紹介されています。

★片柳弘史助祭のブログ「キリスト教…、どないやの?」

<http://d.hatena.ne.jp/hiroshisj/>

…キリスト教入門講座の内容や、フォト・エッセイなどが掲載されています。

⇒教会入り口に紹介のカードを置きますので、詳しくはそちらをご覧ください。

俳句同好会 (二水会)

六甲教会の俳句同好会(二水会)の第1回句会は、2004年3月に開かれました。俳句を少々たしなむ人も初心者も含めて、十人ほどのメンバーが集まりました。しかし適当な指導者が見つからず、まあいいかと素人だけでスタートしました。

というわけで、この句会はきわめて自由な集まりで、気ままに俳句をひねっています。それでも俳句の基本である有季定型(季題を必ず入れた五七五の定型の句であること)を守り、自然や人間の営みを五七五のリズムに載せて作句し、それを披露し、お互いに批評鑑賞しています。そのおしゃべりがわいわいがやがやと楽しいのです。皆様のご支援のおかげで、2006年には作品展をイグナチオホールで開くことができました。毎月第2水曜日の10時から句会を開いています。場所は第3会議室です。また吟行(戸外に出て俳句を作ること)には、今までに布引ハーブ園、阪急御影界限、芦屋川周辺などに出かけました。



俳句人口という、どちらかといえば年輩の方々のイメージが強いのですが、老若男女を問わず、特にみずみずしい感覚を持った若者は大歓迎です。「復活祭」「聖夜劇」「四句節」など俳句歳時記には、教会の暦や行事に関するものが季語としてたくさん載っています。興味のある方は、第2水曜日に第3会議室を覗いて見て下さい。
詫 (つげ)

＜ 6 月 の 予 定 ＞

		教会暦	教会行事
1	日	年間第 9 主日	14:00 結婚準備セミナー
3	火	聖カロロ・ルワンガと同志殉教者	
5	木	聖ポニファチオ司教殉教者	
6	金		初金 7:00 10:00 ミサ
8	日	年間第 10 主日	14:00 結婚準備セミナー 17:00 海星病院集会祭儀
11	水	聖バルナバ使徒	
13	金	聖アントニオ(パドヴァ)司祭教会博士	
15	日	年間第 11 主日	ブックフェア
16	月		14:00 三日月会ミサと例会
21	土	聖アロイジオ・ゴンザガ修道者	
22	日	年間第 12 主日	13:30 典礼奉仕者の集い
23	月		11:00 ベビーとママの集い
24	火	洗礼者聖ヨハネの誕生(祭日)	
28	土	聖イレネオ司教殉教者	
29	日	聖ペトロ聖パウロ使徒(祭日) 聖ペトロ使徒座への献金	13:30 典礼奉仕者の集い 17:00 海星病院集会祭儀



教会の庭には、あまり気がつかない所に可愛い花がひっそりと咲いている。人影少ない平日の昼下がり。明るい初夏の日差しの中で、何を考えているのだろう。

慌ただしい世の中の流れの中で、少し立ち止まって草花たちと話してみませんか。きっと心が癒されるでしょう。

～ 広報部員のつばやき～

教会報編集作業に参加するようになって早くも 4 年。初めは緊張でドキドキしながら(^_^);、そのうち一人で編集できるようになって満足(^o^)/、でもだんだんと慣れっこになって・・・、ついに「また編集～っ!! (θθ)」

4 月の教会報リニューアル後、初の編集担当。初心に帰り、新鮮な気持ちで編集作業に取り組みました(*^o^*)。

nSmFadA♪

教会報7月号の発行は、6月29日(日)です。	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
編集会議は6月22日(日)です。	〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
記事原稿は、6月15日(日)正午までに信徒会館	電 話 078-851-2846
事務室へご提出願います。(広報部)	F A X 078-851-9023
http://www.rokko-catholic.jp	発行責任者 桜井彦孝 神父
	編 集 広 報 部